

華麗なステージで 真珠の祭典

□国際広場でパール・フェスティバル



左上／パール・プリンセスの紹介、右上／「真珠色の肌」を歌うしばたはつみ
下／どんな時にも真珠の輝きを、と華麗にくり広げられるファッションショー

神戸は真珠の街、そのPR活動のひとつとして、去る7月21日、ポートピア'81の国際広場で「パール・フェスティバル・イン・コウベ」(主催・日本真珠振興会)が開かれた。

ステージの上は多彩な企画。午後からは、田崎俊作日本真珠振興会広報委員長のあいさつの後、「真珠・その魅力ある可能性」をテーマにしたファッションショー。水着にも、スポーツウエアにも、カジュアルからフォーマルまで、あらゆる場合にもファッションナブルに真珠をあしらって下さいと、真珠の多様性を披露。続くパール・プリンセスの紹介では、6月12日に選出された野草佐和子さん、三宅千佳代さん、清水希美子さんの三人の「美の使節」が拍手に迎えられて登場した。そしてゲストには歌手のしばたはつみ。おなじみのヒットメロディを披露した後、この日のためにスペインの佳曲「真珠の歌」を日本語に訳した「真珠色の肌」を歌い上げて最高の盛り上りをみせた。

このフェスティバルの運営には神戸真珠親睦会を中心とした業界の若手があったり、胸にパール・マークをあしらったTシャツ姿の活躍が目立った。

寡黙で誠実な人柄 風景写真一筋に

●堀内初太郎の受賞を祝う会



左上/祝賀会はなごやかな雰囲気最終した。右上/岩宮武二さん(左)と棚橋紫水さん(右)に囲まれ笑顔の堀内さん(中央)
左下/笑い涙で岩宮さんの祝辞。中下/新谷英夫さん(左)と児島寛治さん(右)も駆けつけた。右下/今日は被写体の堀内さん

本誌「神戸の風色」でもお馴染みの写真家・堀内初太郎さんが、多年写真文化の振興発展に尽力した功績を認められ日本写真協会の功労賞を受賞。この榮譽を祝って7月4日生田神社会館において盛大な祝賀会が催された。

まず発起人を代表して関西写壇の長老的存在である棚橋紫水さんがお祝いを述べ、風景作家としての業績、寡黙ながら後進育成にも力を注ぐ暖かい人柄などを紹介。

写真家としてスタートした頃から兄弟同様に付き合ってきた岩宮武二さんが「少し金があると米をかうかフィルムをかうか迷った」という貧乏時代のエピソードを語った。病気があがりの岩宮さんを彼が旅行に連れて行ってくれ、その時の作品がきっかけで世に出ることができたこと、「長い付き合いだが初ちゃん腹の底から誠実な男だ」と涙ぐんで語るシーンも。

次々贈られる讃辞に照れ性の堀内さんが「もういい、やめよう」と司会役の小山保さんに声をかける一幕もあったが、関西写壇に大きな影響を与えてきた堀内さんの会にふさわしく神戸の若手写真家のほとんどが顔をみせて、「功労賞などもらってしまっただが、自分はまだまだ現役だ。若い人たちと大いに競争したい」と意気さかな堀内さんを激励した。



結婚相手を探しておられる方、縁談を頼まれている方のために

良縁との出逢いを

●信頼ある組織

懇切なカウンセリング

官公庁ファミリークラブは、官公庁OBが中心となって結成された信頼ある組織で、懇切なカウンセリングに加えて、ビデオ、コンピューターなどのインプット最新の機器を駆使して、豊富なデータの中からあなたに最も適した良縁を提供するところに特色があります。

入会者は公務員が主となっていますが、一般の方でも自由に入会できます。

●コンピューターで良縁さがし

ビデオでお見合い

相性診断の方法は、まず、入会者に対し、専門のカウンセラーが本人の属性、相手方に対する希望条件から血液型、信仰や性に対する考え方、食べ物や動物の好き嫌いにいたるまでの400項目にもわたる事柄を聞きながら、ビデオ撮影を行います。

回答はすべてコンピューターに記憶させ、データにもとづいて、大量の候補者の中から適合する相手が数人選び出されます。

こうして選ばれたカップルについてプライバシーを尊重しつつ、それぞれ



カウンセラーと話しながらビデオ撮影
＜写真 読売新聞大阪本社提供＞

の相手方の詳細な事情を説明し、さきに撮影したビデオを紹介して、容姿やフィーリングを知ってもらいます。

この方法だと、氏名などを明らかにせずに相手を選べる利点があり、従来のお見合いのように直接的な“断った”とか“断われた”といったわずらわしさがなくなります。

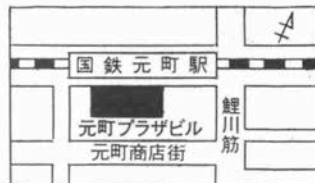
このあと、両者がお見合い希望となりましたら、カウンセラーが立ち会ってお見合いをし、本人同士が交際、合意すれば婚約、結婚の運びとなるわけです。

結婚を考えておられる方、縁談のお世話を頼まれてお困りの方、どうかお気軽にご利用下さい。

なお、くわしくはお電話でお問い合わせください。

当クラブ顧問名

- 武本 好弘 元神戸市立考古館々長
- 向 達也 元神戸市議員
- 中西 光子 ジャパンファミリー取締役
- 井上 英夫 大阪市議員
- 藤井 弘巳 前大阪市助役
- 徳山 正文 元大阪市建築局長
- 松本 光子 元大阪市婦人教育課長
大阪家裁調停委員
- 大屋 政子 評論家(元帝人社長夫人)
- 秋定 嘉和 池坊短期大学教授
- 俵 正市 弁護士
- 橋本 淳子 誠厚学園理事長
(敬称略、順不同)



官公庁ファミリー クラブ

〒650神戸市中央区元町通2丁目9番1号

元町プラザビル5階 501-G号室

電話 (078) 331-1021

★神戸の集いから

★相楽園でパリ祭

7月14日は、ご存知パリ祭である。今年も恒例のフランス領事館が主催する集いが、相楽園会館で午後5時半から開かれた。



パリ祭を楽しむ

ジスカール・ディスタン大統領からミッテラン新大統領に変わったフランスだが、神戸は信望厚いアンドレブリューネ領事のお招きの会とあって、約300人近いフランスを愛する人々が集った。

食卓もドンクが腕をふるい、音楽は海上自衛隊のメンバー。ワインで乾杯する人、踊り出す人と様々。フイリップ・キャン・ネラ氏、ジャン・メルオー神父、楠崎近代美術館長、南奏吉、南インターナショナル社長

小林利夫さんら多彩な顔ぶれだった。

★小松益喜画伯の画文帖

『神戸―在りし日』出版

7月17日の夜、北上ホテル地下ホールで異人館を描きつづける画家として有名な小松益喜画伯の画文帖『神戸―在りし日』の出版を祝う会が開かれた。懐き古き良き神戸を愛情込めた画と文で描き綴ったこの本は小松画伯がじっと見つめてきた神戸そのものが表わされている。マイクなしで挨拶するお元氣な画伯は「まだまだ描き続けます。私は体が丈夫ですし、家内も目を光らせてくれますから……」とかたわらの夫人をユーモアたっぷりねぎらう。



小松益喜ご夫妻

当日は浦井洋衆議院議員、江田仁郎神大教授、上村一氏、久留島義忠氏、杉

原晋水氏ほか兵庫のベンの会のメンバーも多数かけつけ、画伯の「大好きなお酒」もたっぷりある楽しい会であった。

■『神戸―在りし日』A5版 全120頁、価1900円、山口書店刊

★ギャラリー神戸時代企画展100回記念『四人展』初

日に恒例のパーティ

壁面をギャラリーとして活用し、神戸の気鋭の作家の展覧会が次々と企画されているユニークで、「ひと味違い」のスナック&ギャラリー神戸時代で若手洋画家四人展が7月16日から開催された。犬童徹、知念正文

中西和夫、東浦好洋の四人で各々持ち味を生かした力が作が並んだ。犬童さんは馬をモチーフとした幻想的な



四人を囲んで盛大なパーティに

世界、知念さんは沖繩の風物、中西さんはヨーロッパ旅行の印象、東浦さんは情緒たっぷりな港の風景を透き通るような色彩で描きそれぞれ競作。

ちようど、この展覧会が企画展としても100回目という初日、中西勝、赤根和生、西村功、佐藤廉、河瀬喜代子、森本泰好、他多数がかけてつけ熱氣あふれるオーブンニングパーティとなった。

♥小泉パーティご案内

小泉パーティは結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

神戸マリッジへ(無料)

楽しいご婚札のお買物をご予算に応じてプランニングし、神戸の一流の専門店をご紹介します。

<協賛店>

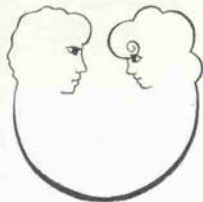
家具の江戸屋・宝石のタジマ・ふとんのつゆき
紳士服のニッケショールーム・和装のみよしや
旅行の日本旅行・他各種の専門店

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は
事務局 〒650 中央区江戸町100 高砂ビル510
コミュニティサービス内費392-0200 小泉正巳

♥結婚特集Ⅰ対談

現代版結婚のすすめ 恋多き人生を生きよう

三枝 和子(作家)
新井 満(シンガーソングライター)



人はなぜ恋をし結婚するのか。その先に待ち受けるものは何なのか。この永遠の謎に女性の立場から斬り込むのは、結婚歴30年を誇る作家の三枝和子さん。男の側から迎え撃つのは、最近、東京へ単身赴任して東の間の独身生活を送るシンガーソングライター新井満さん。初対面の二人だが、水わり片手にたちまち意気投合、男と女の機微について縦横無尽に論じた。

男よ甘えるな——自立の思想とパンツ洗い

新井 30年も夫婦をやっているというのは、どんな感じですか。よくみんな格好よく空気がいいなもんだ、と言いますが、そんなもんなんですか。

三枝 空気ではないですね。今でも離婚できたら離婚しようと思えますから。(笑) よくまあ別れずに30年と思えますね。そんなにいいもんでもないです。(笑)

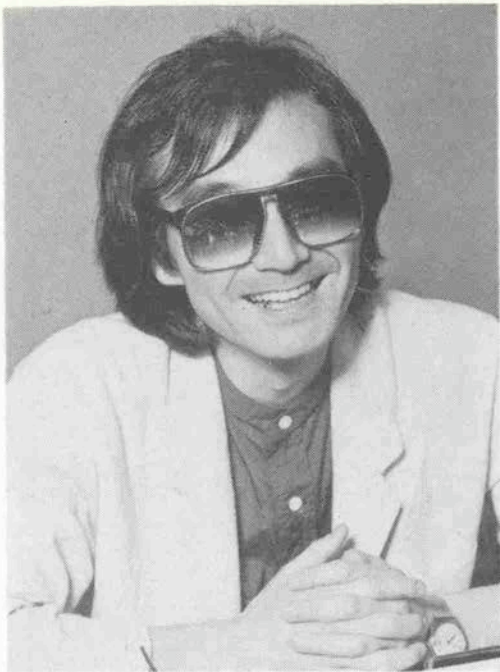
新井 できれば離婚したいということの中身は何なんでしょう。

三枝 結婚というのはつまり結婚制度とイコールでしょう。男と女が同棲するというのは少し違う。ただ関係があるというのとはまた別です。三つの段階があるとすると、一番いいのはたまに同棲するという関係ですね。それが、今の私にとっては一番望ましい。

新井 夏休みや冬休みみたいに「そろそろ同棲する頃だ」って1月くらい一緒に暮らすわけだ。(笑)



自分で自分のことのできない男が多いでしょう。結婚というよりたまに同棲するというのがいいですね：三枝和子さん



ええ格好しいかも知れんけど、男と女がお互いにもっとすばらしい人間になれるような関係でありたい：新井満さん

いけない。(笑)

三枝 女がいなくて生きていけないというのは、つまり身のまわりの世話の話でしょう。

新井 いや、人生のすべてにわたって。

三枝 非常におかしいと思うんですが、男が外に出て働き女は家事労働をやって分業ということになっている。子供を産んで離乳期のちよっと後まで育てて、とそのへんまでは女の仕事と思うんですが、それ以降は必ずしもそうではない。育児の直接的な部分は女がやるにしろ、それ以外の所はフイティフイティでなければ。それができない男が割合多いんです。

新井 女性に甘えているんですよ。

三枝 そういうと格好いいんですが怠けているんです。動物は共同して子供を作り育てるわけですが、それの済んだ後もなお一人で生きていけないというのは具合が悪い。男は大体一人で生きていけないですね。結婚制度があるので何とかごまかしているんです。自分のことを自分でできるとか、つまらない話をしているようですが、ものすごく大事なことだと思っんです。ある所で暴言を吐いたんですが、吉本隆明について自分のパンツのありかもわからないだろうに何が自立の思想だ、とやったんです。(笑)男は自立というのを、パンツを洗ったりすることだとは思っていなくて、もっと別のことなってますね。女から見ると、そのへんがこっけいなんです。

独立一号住宅から見た結婚の意味

新井 僕は今別居中なんです。もっと色っぽい話ならいいんですが、転勤で単身赴任して、子供の学校の都合もあるので夏までずっと一人者の生活です。僕の入っている住居が非常に象徴的の独立一号住宅というんです。(笑)パンツを洗って、ごはんを炊いて、後片付けをする。埃

三枝 女性に対して結婚を一つの就職みたいに言うでしょう。もしも就職なら徹底すべきですが、有給休暇も休日もないでしょう。ところが永久就職なんて言う人が案外そのへんを考えてないんですね。ただ結婚については人間の歴史がずっとあるので、一概には言えません。同棲ならまだいいんですが、結婚すると家があって亭主の親兄弟と付き合っていかなければならない。それが一番嫌ですね。今はそんな状態にまわりつかれた結婚生活をしている人は少ないのかな。でも40くらいから上の世代の人はやっぱりそうですね。

新井 離婚したいとおっしゃったのは、ご本人の問題でなくて制度の問題なわけですね。同棲であればずっと一緒に暮らしてもよい。すると、今でもご主人のことを好きなのわけですね。

三枝 まあ、それは好きの状態が違ってきていますが。ずっと同棲するとならねえ。割合に男って世話が焼ける。自分のことを自分で出来ない世代ってあるでしょう。新井 僕なんかも駄目ですね。ものすごく世話をやかせると。一人では何も出来ないし、女の人がいないと生きて

もたまる。暮らしというか家事というか本当に大変なことだと思いました。その前まではやってなかったわけですが、独立一号住宅に入ったのを契機に独立した気がしているんです。

三枝 それは男性として非常に良い生活を始めたわけですね。(笑)

新井 一方で妻は妻として、夫のいない生活を始めたわけです。名前は妻だが夫は帰らない。まあ一緒に暮らしている時でもあまり帰らなかったけど(笑)、でもね、もしかしら帰ってくるかもしれない。深夜すぎで帰ってきた時にお茶づけくらい出そうとか風呂をどうするか妻としていろいろ考えるわけでしょう。それが待つ必要がなくなつたから体調がすこよくなくなつたっていうんです。一体、夫婦って何だろうって考えますね。

三枝 奥さんとしては非常に自由な感じがあるんですね
新井 つまり妻も独立一号住宅にしているわけです。しょっちゅう旅行してたりするんですよ。夫がいなくなると周りの人がとても親切にしてくれるらしい。(笑)近所の奥さんたちがパーティを開いてくれたり、子連れで旅行していると旅先で男が親切にしてくれたり、とても良いですよ。夫たる僕の立場はどうなるんやろ?(笑)

三枝 考え方をええればいいと思うんです。結婚というのが、男の側からの絶対的支配、女の側からは絶対的依頼という、そんな関係だと面白くないですが、男と女の間に一応の安定をもたらすでしょう。結婚の約束ができるのは人間だけで、動物はそれがいないためにオスもメスもイライラしている。性生活が一応安定して文化につながりますからね。女の永年就職とか男の身のまわりの世話のためとかいうのでなく、文化の基準としての結婚として考えると割に面白い面が出てきます。

新井 友人が結婚したんですが、式の翌日から奥さんはヨーロッパへ留学して、ほとんど一緒にいない。何のために結婚したのかなという感じなんです。当人たちは離れて生活しているのがとてもよいと言う。夫はルボラ

イター、妻は大学院の学生で、家で食事なんか絶対つくらない。性生活だって安定してないと思うんだけど。結婚のよさというのは、後で離婚できるところにあるんじゃないかな。男と女が周囲の祝福を受けて愛の巣をつくる。その瞬間からチャラにしようよ、という離婚の楽しみが生まれてくる。

三枝 この頃、男の壊せるものは結婚生活くらいなものですか。国家は壊せないしね。山本美智子さんの「天使よ海に舞え」を読んだんですが、アメリカは日本以上に離婚がひどいでしょう。今日も離婚、明日も離婚というのが子供たちの間で日常化して、誰それは3番目の人の子、誰それは今の人の子じゃない、と平気で子供たちが喋っている。それを聞いていて結婚生活には大きなまやかしかがあるのではないかと感じはじめ。男は正直のところ、自分の子供だという確信が持てないでしょう。結婚というのは、自分で自分の子を確認できない男がこしらえた一つの制度なんです。女は離婚を結婚制度への疑問という形でとらえる。男の場合は、破壊の本能というとらえ方になるんですね。

愛の寿命は何年か
新井 僕がなぜ離婚の話を出したかと言うと、三枝さんは結婚を制度としてとらえてますが、そうじゃなくて男と女の純粹に個人的な愛情の契約ととらえた場合、愛情は生まれた以上はいつか死ぬものだ。たとえば真知子と春樹が出合って愛が生まれましたよね。(笑)

三枝 あなたも古いわね。(笑)もう少し何か喻えようがないの。私の齢に合わせたわね。(笑)
新井 愛は生まれていつか死ぬんです。生き物であり寿命があるものだととらえた方がわかりやすいですね。そこで、愛の寿命は一体何年かという話になるんですが、これは統計的に決まっているんです。30年夫婦をやつたらっしやる方に訊ねますが、何年だと思えますか。

三枝 そうですねえ、10年くらいかな。

新井 すばらしいなあ。これは30年やっている方の自信だな。実際には2年なんです。どんなにカッコした恋も2年たてば亡びる。いや、俺はもう50年も続いているという人の場合はどうかというと、またちよつと違うんですが、プロ野球に契約更新というのがあってしょう。(笑)あれが2年ごとにやってくる。その時に結論が2つあって、一つは惰性です。また新しいのを見つけたのも面倒くさい、それでずるずる50年やってきたというケースです。それはそれですばらしいですよ。もう一つはすごく格好いいんですが、2年ごとの節目に新生がおこる。これは至難の業なんです。2年付き合っていると、大体男女関係の全部が見えてきて、どんなに格好よく歩いていても実は短足だったりと、すべては格好よく歩いていて、同棲解消というのが多いのですが、そこを逆に2年ごとにお互いが生まれかわると、ああこの人面白いからもう少し一緒にいよう、という気になる。(笑)

三枝 2年というのは非常に面白い数字ですね。女から見てリアルだと思うんですが、今は操作して子供を産まないけれど、大体普通に男と女が付き合って子供を産み、女が動きだせるといふ周期が2年なんです。新井さんの話を聞きながら何で2年なんだろう、と一生懸命考えていたんですが。

新井 寺尾聰の「ルビーの指環」でも「そして2年の月日が流れ去り」でしょう。歌謡曲では大体2年を使うんですね。1年では短かすぎるし、3年では間伸びする。僕の友達の間婚のケースでも2年というのが圧倒的ですね。だから30年やって15回も新生をとげてきたというのは大変なことですね。

三枝 いや、そんなに自覚的な話じゃないですね。(笑)もう一回新しく始めたところで大体同じだと思ってしまふ。長く続いている人は大抵そんなところじゃないですか。もう一度家捜しするのも大変だし、私にはプロ野球というより賃貸住宅の契約更新の方がびつたりです。(笑)

結婚はゴールではない

新井 今の奥さんと結婚する時に約束したんですが、何のために結婚するか、お互いにメリットがなければいけない。セックスの問題はそれほど重大なことじゃないし、実際の結婚生活の中では大したパーセンテージを占めませんよ。僕は割と理屈っぽかったから真剣に話し合った。結婚することで自分ももっと自分自身になれる、眠っていた才能が開花する、そういう良い方向へお互いが向かうために結婚しようよ、なんて話した。彼女も「いいわあ」なんて(笑)でも、それはもしメリットがなくなったら別れようというのと同じなんです。ある日突然、彼女から「別れましょう」と言われる可能性がある。薄氷を踏む思いですよ。我が家の場合は。

三枝 私はそんなに關心なかつたな。もっと散文的なんですね。

新井 そういう約束で結婚したからには頑張りざるをえないわけです。のほほんとサラリーマンをやっていたらよいところを唄を歌ったり文章を書いたり、昨日までの自分でいてはいけない新生への願望があるんでしょね。すると、あと自分には何ができるだろうと探しはじめる。これは結構疲れるんですよ。家庭ってのは、普通外で疲れたのを癒しに帰るといふふうに言われてるでしょう。それが逆にしんどくなる。修羅場ですよ。ただ、結婚をゴールと考えているOLを選んだ男は最悪です。そこから走ろうとしているのに相手は走らないんだものね。男の苦悩はそこから始まる。(笑)

三枝 結婚というのは大体が男と女の修羅場なんです。新井さんの年代ではまあ対等の修羅場になるでしょう。私くらいから上の年代になると対等でないんです。女が修羅場だと思っていることを男は知らないし、男の修羅場を女は知らない。よく言えば、お互いに隠し合って、悪くいうと鈍感なままやっている。私たちは30代の人の結婚のあり方と随分ちがうので、あまりいろいろ言えな

いですね。30年もやっているというのは何も言う資格がない証拠ですよ。5〜6回やったという人でないと、良い発言ができないです。

新井 ただ離婚するのも契約更新するのも、あまり大差ないですね。別な人と一緒になってはみたが、最初の奥さんと同じやんか、というのが多い。お母さんに似ていたり、人間そんなにキヤパシテイがないんですね。それで、僕が頑張ると奥さんは奥さんなりに変身しようとする。突然、帽子のデザイナーになったり、ナナハンを乗りまわしたり、保母の国家試験を受けたり、同じ人間でありながら他の人間になるわけです。これは結婚を持続させる効果的な方法ですね。

超文芸大作と三本立てと……

新井 そこで男と女はなぜ結婚するのか、ということになります。人間でやっぱり面白くないことはやらないわけで、結婚ってなんとなく面白そうだと思う、一遍やったらかという気になる。そして後で後悔する。(笑)

三枝 結婚制度は自分の子供であることを確認するために男が作ったものだと言いましたが、今は男と女が普通の生活を楽しむものになっています。特に女はいまやそれでいい。結婚する時も男ほど性的な願望はない。特定の男と日常生活してみたいわけです。同棲でもかまわないが、結婚の方が社会的に安定していますからね。そのへんが結婚を選ぶ理由だと思います。性生活以外の生活をやるということだから文化ですね。最近食料が豊富になって猫の生態が変わってきている。発情期でもないのにオスとメスが仲よくしたりする。これは人間と同じ状態で、文化やなあと思うんです。私が言うとうとうも殺伐とした感じですね。

新井 MrレディーMrマダムという映画の中で、男同士が結婚するでしょう。あのパート2を見て、ラストシーンで泣きましたね。ギャングと警察が撃ち合って弾の飛びかう中を2人がひっしと抱き合う姿に何と美しい夫婦愛

かと感動させられたんですが、結婚というのは別に男と女に限らない。同性同士でもいいんじゃないかと思いつたりして。

三枝 でも、今までの話の中には子供の問題が全く入ってきていないでしょう。だから、そういう話になってしまふんです。父親として子供のことをどう思いますか。新井 子供は不思議な生き物ですよ。エイリアンですね一緒に遊んだこともないし、珍しいものを見るような眼で見えています。子供を産むための結婚という面もあるかもしれないが、必ずしも産まなくてもよい。よほど財産でもあつて相続のために必要といふのであれば別ですが子供は結果として出てくるものでしょう。

三枝 それは、人の意識の中では結果でも、それを超えた種族維持の本能があるでしょう。そこから考えると本能の方が主なんですね。

新井 ただ、昔は子がかすがいと言いましたが、今はそうなりませんね。子供がいよいよといまいと、別れる時は簡単に別れてしまふ。

三枝 津島佑子の小説の中に、ショーウィンドウで品さだめするように男を選んで、今度はこの男の子供を産んでみたい、と結婚する女が描かれています。彼女は実際にその実行者でもあるんですが、そういう形を新井さんはどう思われますか。

新井 おそらく、そういうのが一番いいんじゃないですか。養育費などの問題さえ解決されれば、人生が春秋に富んでいて面白い。いろいろな人生が味わえるでしょう。僕は年に100本以上映画を見てるけど、映画を見るのも別の人生をその中で体験できる良さですね。やっぱり1本見て終わるより3本立ての方がよいし、オナシス夫人やデビ夫人みたいに生きられたらハッピーですよ。

三枝 それでいくと私なんか超文芸大作1本立てという感じですね。(笑)「風と共に去りぬ」みたいに前後篇2回に別れている。どちらがいいと一概に言えないが、傑作はともかく愚作の1本立てはどうしようもない(笑)。

新井 見おわらないと評価がわからない。結婚は賭とはよく言ったもんです。澤地久枝さんから石川節子について書いた本を頂いたんですが、啄木というのは何てひどい男かと思いました。妻としては入場料返せって言いたくなるでしょうね。それを開きなおって死後に焼くように言われていた日記や原稿を整理して啄木を男にした。あれは女の意地ですね。彼女が原稿を処分してたら今の啄木は存在しない。でもね、後世、啄木の妻と呼ばれても生きてるうちに幸せでなかったらつままないね。

最高の恋は道ならぬ恋だ

新井 結婚って別にしないでよんじやないかな。好きになつた人とその都度、性生活を共にして嫌になつたらやめる。法律と無関係にフリーに生きるのが最高です。恋多き人生を生きた方がいい。それで結婚したければすればよいし、要はそこにもつれこむ以前の問題だ。一番いいのは登山でいう八合目の状態ですね。苦しみながら一生懸命に頂上に向かう姿が人間としても一番美しい。ユーミンというシンガーソングライターが「14番目の月」というLPを出していますが、15夜の満月は欠けるばかりでその一步前の14番目の月が最高、恋もそういうふうに行きたいな、という唄です。八合目の人間関係を保つには、常に彼と彼女が結婚一步手前であれば最高だ。

三枝 やっぱ新井さんの方がロマンチックね。私はわりに恋と結婚を分けて考えるんです。私は二番目の男と結婚した方がよい、とまず思ってしまう。頂上の、一番好きな男とはしない方がよい。

新井 そんなこと言つて、ご主人にいいんですか。

三枝 いいんです。もう神戸っ子は見せない。(笑)

新井 本命は生涯心にしておくわけですか。

三枝 しまつてはおかないが一緒に暮らしません。生活というのは、もつといろいろなことがあるから。どうでもNo.1でなければ駄目って人はなかなか結婚できない。

新井 No.1に会つた時は死ぬ時だね。(笑)

三枝 それがわりと簡単に会うんですけどね。(笑)

新井 やっぱ最高の恋は道ならぬ恋ですね。現代ではあの娘と一緒にいたいなんて言うのと、わあっと祝福され、駆け落ちしても旅費なんかくれたりして、道ならぬ恋が成立しない。そこでどうするか。まずシングル同士が相思相愛になつたら、彼女を結婚させて僕も女房をもつ。お互いに子供なんか作っちゃって、それからまたあらためてお会いしましょう。(笑)

三枝 うれしそうな顔して……。どうして、そんな面倒なことをするの。さっさと人妻に惚れたらよいのに。(笑)

新井 面倒かもしれないけど、やっぱ源氏物語の紫の上を育てなくて。それから道行きというか心中天網鳥の世界、あの世で添いとげるなんて最高です。その瞬間はヒーローでありヒロインになれる。現代は菓づけでなれない時代だがドラッグなしで人生最高のハッピーければ幸福状態が味わる。結婚のメリットは、最後は道ならぬ恋に陥つて心中もできるということかな。

三枝 すると新井さんの結婚の薦めは、その一は離婚できる、その二が心中もできる、というわけね。

新井 夫婦げんかもできる。古今東西の私小説の意味もわかるし、これはかなりマイナーな結婚の薦めだな。

三枝 新井さんのいう道ならぬ恋の本身は、ストイシズムですね。好きだけどその人と結婚しないという、その妙味を今の人はあまり知らないんですが。

新井 ストイシズムね、そうなんです。僕は佐渡おけしが得意なんです、実はマジおけさなんだ。(笑) 日本の女性で一番美しいポーズはうつむいて柳の下でしゃがむ姿なんです。竹久夢二の絵にもよく出てくるが、じつと耐える姿に男は何とかしてやらなくてはと思う。一つだけ読者のために得になる話をする、かわいそうだなと思わせるのが彼にプロポーズさせる一番の方法です。

三枝 でも本当は結婚なんて薦めるもんじやない。

新井 おもろそうだなと思つたら、結婚したらいいですよ。その程度ですよ。結婚なんて。(竹葉亭にて)